

MACC^{マック}通信

Monozukuri Arakawa City Cluster

第39号

2016年12月28日発行

《主な内容》

- ・第11回MACCプロジェクトフォーラム開催報告
『会社の継ぎかた/モノづくり産業のミライ』
～モノづくり女子“あるある”トーク～
- ・クラウドファンディングの基礎知識 VOL.3

荒川区が進める『MACCプロジェクト』は、荒川区の特徴である多彩な産業集積を生かした、区内企業同士の顔の見えるネットワークの形成を推進することによって、荒川区の産業振興を図るものです。

「MACC通信」では、この『MACCプロジェクト』に関するホットな情報をお届けします。

第11回MACCプロジェクトフォーラム 『会社の継ぎかた/モノづくり産業のミライ』 ～モノづくり女子“あるある”トーク～

MACCプロジェクトでは、東洋大学と協力し、12月9日に東洋大学白山キャンパスで「第11回MACCプロジェクトフォーラム」を開催しました。今回は、製造業の家業を受け継いだ女性経営者等4人をゲストに招き、「会社の継ぎかた/モノづくり産業のミライ」と題したパネルディスカッションと、就職を目前にした女子大生を交えたトークセッションが行われ、熱い思いが伝わり会場は盛り上がりました。

～女性経営者と女子大生が
女性活躍社会を熱く語る！～

冒頭、主催者である荒川区の陣内(じんのうち)恵子・経営支援課長と、ご協力いただいた東洋大学の根岸哲也・研究推進部次長(研究推進課 兼 産官学連携推進課課長)がともに、「東洋大学は、日本の私立大学で初めて女子学生が入学し、男女共学が実現した大学。その学府で女性活躍社会をテーマとしたフォーラムを開催することは意義深い。荒川区と東洋大学が産学官連携を広げる新たな1ページにしたい」とあいさつしました。



東洋大学 根岸次長

パネリスト



伊藤 麻美氏



河村 由里氏



戸屋 加代氏



柴田 葉子氏

【パネルディスカッション】

テーマ:女性後継者からみた

『会社の継ぎかた/モノづくり産業のミライ』

パネリスト:(50音順)

伊藤麻美氏 = 日本電鍍工業(株)(埼玉県さいたま市)
代表取締役

河村由里氏 = (株)昭栄精機(山梨県中巨摩郡昭和町)代表取締役

柴田葉子氏 = 柴田コンクリート(株)(東京都墨田区)
専務取締役

戸屋加代氏 = 中辻金型工業(株)(大阪府東大阪市)
取締役総括部長

パネリストの4人は、いずれも製造業の創業家に生まれ育った“跡取り娘”です。家業を受け継いだ経営トップあるいは役員の立場で、女性活躍の実体験を語り合い、意見交換が行われました。

事業承継の苦労談...!

まず、事業承継の経緯や苦労談について、金属素材の電気めっき加工業を承継した伊藤麻美氏は、「16年前に創業者の父が亡くなって一人娘の私が跡を継いだ。前職はDJ(ディスクジョッキー)だが、技術面の勉強を積み、いまは技術と品質をアピールで

きる立場に変わった。“人”と“カネ”のマネジメントへの気遣いが多いが、何事にも前向きな姿勢で臨み、課題を乗り越えながら、チャレンジし続けている毎日」とのこと。

6年前に、精密部品の切削加工業を承継した2代目の河村由里氏は、「創業者の父は技術職人だったので、現場知らずの私が跡を継いだ当初は、マサツもあった。職人集団の職場環境を大切に、モノづくりには何より心が必要だと考えて、“心地よい会社”づくりを進め、お客様に対しても最高の心地よさを提供する会社を目指して経営にあたっている」とのこと。



左から伊藤氏、河村氏、柴田氏、戸屋氏

道路用・下水道用コンクリート製品を製造販売する家業に飛び込んだ柴田葉子氏は、「創業者の父の事業を

引き継いだ会社は、母が代表取締役、姉と私が役員という家族経営。工務店と建材工場が一体化した企業体で、扱う製品は重く、硬いが、社風は自由闊達なムード。父の時代より従業員の平均年齢も若くなり、社内雰囲気も一変し、新たな企業体制が定着してきたところ」とのこと。

家業の金型メーカーに入社して15年目の戸屋加代氏は、「結婚して時間に余裕ができたため、工場に顔を出すうちに、町工場の経営に関わることになったが、技術を身に付けないと金型は語れないことを痛感。いまま製造から販売までの業務に精通するようチャレンジを続け、自分にできることをひとつずつ積み上げている」との実情が披露されました。

家庭と仕事の関係や相談相手は...?

4人ともに結婚しながら社業を遂行している状況を説明し、「家庭と仕事は、どちらも手を抜かずバランスをとることで両立できる」「子育てもビジネスも楽しみながらやっている」と、にこやかに話していました。

そのうえで、経営面での相談相手(メンター)や従業員とのコミュニケーションについては、「家族が最大のメンター。公私混同を避け、社員には優しさ」と厳しさのメリハリをつけて対応する」と異口同音に語りました。いずれも社内にとどまらず、「同じ

立場の経営者・後継者や地域の仲間との交流、モノづくりの先輩達とのネットワークは広げたい」との意欲を示し、経営トップの場合は、「分析力を磨き、自分で方向性を決める能力が問われる」と自己研さんの重要性を強調していました。

モノづくりへの経営展望は...?

電気めっき加工業の伊藤氏は、「機能と美観を兼ね備えた“機美共存”の表面処理が持ち味。すべてが手作業だからこそその強みを活かし、ヒラメキとトキメキの製品づくりを通じて社会・地球から愛される企業(アースフレンドリー)を目指す」

精密部品加工業の河村氏は、「初めてのお客さまにも丁寧に対応し、多種多様な部品加工を少量でも引き受ける点を強くアピールしたい。材料から仕上げまでの一貫生産が強みで、IoTによる管理体制も構築中」

コンクリート2次製品メーカーの柴田氏は、「製品づくりの固定観念を打ち破って、燃えない・腐らない造形物との発想で、歩・車道用を中心に従来にないコンクリートグッズを生み出したい。生産工程にロボットを導入するほか、異業種交流も進め、国際展開も図りたい」

金型加工業の戸屋氏は、「製造業だが、社内ではサービス業との意識。お客様のニーズがどこにあるかを追及し、他社にはできない付加価値を提供する企業になることが勝ち残りにつながる。非常識を常識に変える企業力を備えることが課題」

【東洋大学学生とのトークセッション】

テーマ:女性活躍の社会における、わたしたちの未来

学生:筒井美帆さん = 国際地域学部国際地域学科

松本浩乃さん = 理工学研究科

生体医工学専攻

女性経営者:パネリストの4人

学生の筒井さんはIT企業に、松本さんは食品メーカーに就職が内定し、来年春の卒業後は社会人になる予定です。

その2人の学生から女性経営者に対しては、「女性がビジネス社会で活躍する際に大切なこと」「女性のリーダー像」などの質問がありました。

女性経営者からは、「人間関係への気遣いから逃げてはいけない。相手を尊重することが大切」「自

分の言動に一本筋を通すこと。自分の指針を持つことを勧めたい」「経営幹部になれば、どういう方向に行くのか明確に示す必要がある」「ブレないこと。夢を叶えるには強い意志が欠かせない」、そして「健康が第一」などのアドバイスがありました。



左から筒井さん、松本さん

さらに、最近の女子大生の就職活動について、

「大手企業、有名企業を優先する学生は多いが、ミスマッチも目立つ。企業主催のセミナー



トークセッションの様子

で自分に適した仕事を選択したり、社長さんをはじめ人との出会いが決め手になる場合も少なくない」といった話もありました。



ファシリテータ 豊泉

クラウドファンディングの基礎知識 VOL.3

今回は、クラウドファンディング事業者の特徴を確かめるために代表的な事業者を比較してみます。

さっそく、グーグルで「クラウドファンディング」を調べてみると866万件がヒットしました(2016年12月4日現在)。

グーグルの検索トップには、キャンプファイヤー、レディーフォー、マクアケ、エーポート、ファーボがでてきました。さて、どのクラウドファンディングを利用したら良いのでしょうか？

さっそく、利用者の立場で、それぞれの特徴をホームページから比較し、事業者選択の判断基準を考えてみましょう。

【1.キャンプファイヤー】

設立は2011年と業歴、知名度ともにトップクラスです。募集期間内に目標金額を達成した場合にプロジェクトが成立するオールオアナッシング方式(All-or-Nothing)、目標金額の達成・未達成に関わらずプロジェクトが成立となるオールイン方式(All-In)の2つからプロジェクトの選択が可能です。

【2.レディーフォー】

東京大学発ベンチャーであり、創業は2011年、支援実績金額が多いことが特徴です。オールオアナッシング方式のみです。

【3.マクアケ】

アメーバブログで有名なサイバーエージェントが運営。ブログで培ったノウハウを活用しており、ページ作成や販売支援機能のツールが充実しています。オールオアナッシング方式、オールイン方式の2つからプロジェクトの選択が可能です。

【4.エーポート】

朝日新聞社が母体。同運営会社を利用した場合、同社系列の媒体で紹介される可能性があります。審査は7営業日を目安に回答します。オールオアナッシング方式、オールイン方式の2つからプロジェクトの選択が可能です。

【5.ファーボ】

地域や地方に特化しており、地域をサポートするエリアオーナーが資金調達中の改善アドバイス、クラウドファンディングの普及促進をサポートする仕組みをとっています。

また、報酬型(購入型)のみを取扱っているため何らかの報酬を用意することが必要になります。オールオアナッシング方式のみです。

図表1のクラウドファンディング事業者一覧は、5つの事業者の属性をまとめたものです。5つのクラウドファンディングの比較において、違いが明らかとなるのは手数料です。

まず、手数料の最安値は、キャンプファイヤーの5%であり、最も高いのはエーポートのオールイン方式で目標額に達しなかったときの25%です。

ちなみに、決済手数料とは、クレジットカード決済においてクレジット会社に支払う料金のことです。キャンプファイヤーは、決済手数料のみであり、実質無料ともいえます。

次に、プロジェクトに関わるサポートです。

キャンプファイヤーとレディーフォーは担当者1名がサポートしており、マクアケは複数人でサポートしています。エーポートは、朝日新聞社のスタッフが担当するとしています。同事業者のプロジェクト

担当者は、どのような専門領域のスタッフが担当するのか明示されておりません。ファーボは地域に特定の担当者がいるのが特徴です。ある地域で多数のプロジェクトの申し込みがあった場合、地域担当者が全てカバーできるのか、担当者との相性が合わない場合はどうなるのか、という疑問が残ります。

クラウドファンディングは、募集金額から手数料を差し引く仕組みであることから、過大な費用をかけずに新製品のプロモーションができるという優れた特徴がありますが、その他にも、3つのメリットが考えられます。

1つ目は、「新製品の評価」です。クラウドファンディングのサイトに製品を掲載することで、新製品が消費者のニーズに合っているか、テストマーケティングができます。

2つ目は、「支援者の獲得」です。クラウドファンディングの資金提供者は、会社や製品の協力的なファンとなることが多く、その後の製品への助言者となり得ますし、未知の顧客へのオピニオンリーダーとなってクチコミを広げてくれることもあるのです。

3つ目は、「プロモーションの学習」です。写真の載せ方やコメントの仕方等プロモーションのノウハウを運営会社から吸収することができます。

ところで、どのようなクラウドファンディング事業者を選択すべきでしょうか？

次の通り、目的に応じて事業者を選ぶべきでしょう。

新製品のテストマーケティングを目的とするならば、新製品に適した市場を選択する必要があります。クラウドファンディング事業者毎に得意な市場があるため、個別に調べる必要があります。

多くの人に影響を与える目的であれば、多くの資金提供者を有する大手のクラウドファンディング事業者が良いのではないのでしょうか。

プロモーションの学習を重視するのであれば、クラウドファンディングにおけるプロジェクト企画の専門知識を有する担当者を配属している事業者を選択すべきでしょう。

担当者との相性も重要な要素となります。相性の良い担当者を複数のクラウドファンディング事業者の中から選んでください。

今回は、どんなプロジェクトが資金提供者に人気なのか、また、人気の理由についてお伝えします。

著者略歴 相馬一天

博士（経営学）埼玉学園大学大学院。

専門は金融市場論。

近年は、日米の中小企業を中心に研究。

大学卒業後、銀行、ベンチャー企業を経て、大学教員（日本経済大学）。

荒川区高度特定分野登録専門家



図表1 クラウドファンディング事業者一覧

	名称	運営会社	設立	資本金 (千円)	手数料	担当者の サポート	備考
1	CAMPFIRE キャンプ ファイヤー	株式会社 CAMPFIRE	2011年10月	約13	5%(決済手数料を含む)	担当者1名 (無料)	・代表はGMO創業者 ・支援実績10億円
2	READYFOR レディー フォー	READYFOR 株式会社	2014年7月	1	17%(決済手数料を含む)	担当者1名	・2011年3月東京大学発 ベンチャー ・支援実績30億円以上
3	Makuake マクアケ	株式会社サイバー エージェント・クラウド ファンディング	2013年5月	約10	20%(15%、決済 手数料5%)	数名の クリエイティブ チーム	・株主: サイバーエージェント
4	A-Port エーポート	株式会社朝日新聞 社メディアラボ	1879年01月	65	20%(決済手 数料を含む、 消費税別)*	朝日新聞社 のスタッフ	・朝日新聞のクラウド ファンディング ・購入型のみ
5	FAAVO ファーボ	株式会社サーチ フィールド	2008年7月	1	20%(決済手 数料を含む)	地域毎の エリア オーナー	・地域や地方に特化

*オールイン方式で目標金額に達しなかった場合の手数料は25%(消費税別)。

(出所) 各社ホームページより

連載～その21～

牛山博文の！ 毛～ひと工夫！



MACCミドルコーディネータ
早稲田大学ビジネススクール特別研究員
牛山博文

MACCプロジェクトでは4名のコーディネータによる、きめ細かい企業支援を行っています。

このコーナーでは、牛山コーディネータによる生産管理の事例やMACCコーディネータとしての活動報告等を、わかりやすく連載で皆様にお伝えしていきます。

社長がいなくてもまわる会社？

早いもので荒川区内の中小企業支援を始めて足掛け6年になりました。

支援開始の当初、特に若手経営者の方々の会社を訪問し、ものづくりの仕組みについて具体的な課題の提示と解決策についてアドバイスをする形で支援をスタートしました。企業にとって未来につながる「ものづくり」をどのように進めていくのかという話題になった時、ある社長さんから「とにかく忙しくて将来のことを考えている余裕が無い」という事を言われました。

中小企業では特に社長のトップダウンの指示が無いと日々の運営がままならない場合が確かに多いと思います。

しかし会社というものは、変化する諸環境に合わせ経営することが必要です。そのためには当然社長の未来へ向けた意思決定が必要でしょう。日々の会社運営に社長の意思決定が都度必要な状況では、なかなか経営改善は進みません。このような状況では、いくら課題解決のための提案を行ったとしても、課題解決のための時間がさらに必要になり、結

果的に何も改善されないこととなります。

そこで、そのような社長さんには次の提案を行いました。その提案とは「社長が2週間程度会社に出なくてもまわる仕組みを考えましょう」ということです。2週間という時間の根拠は、少なくとも2週間あれば、緊急事態での社長不在に備えることができるし、休暇を取れない社長に家族サービスをする時間的な余裕を持っていたら良かったからでした。

社長がいなくても2週間会社が運営できるようにするということと、自ら運営課題解決を日々行なう場合とでは、目的レベルが違います。ある社長さんは自社運営における自分の役割を見直し、計画に落とせるものは落とし、他の人や機械に任せることは任せるといように仕組みを組み立て直すことで、未来を考える時間的余裕を獲得されました。その結果新たな技術開発やQCD向上で成果を挙げています。

最近その社長さんは「3ヶ月会社を留守にしても大丈夫な仕組みを作りたい」と仰っていました（本気で3ヶ月留守にするとは到底思えません(笑)）。

勿論企業ごとに制約があつてなかなかうまくいかないかもしれませんが、やはり「未来を考える余裕」がないということに“危機感”を持っていたきたいと思っております。



MACCプロジェクト 10周年記念交流会



MACCプロジェクト発足10周年を記念して、MACC会員と支援機関等、今までに、プロジェクトをご支援いただいた皆様に、お集まりいただき、交流会を開催させていただきます。

当日は、コーディネータを囲んで、この10年を振り返りながら、プロジェクトの活動に協力していただいた方への感謝状贈呈・会員同士の意見交換等を企画しております。

是非ご参加いただき、会員同士の交流を一層深める場としても、ご活用ください。

開催日：平成29年2月10日(金)

時間：18:00～20:00

場所：荒川区役所 地下食堂
レストランさくら

会費：2000円

(当日受付にてお支払ください)



荒川区 産業経済部 経営支援課
MACCプロジェクト事務局

電話：03(3802)4683

FAX:03(3803)2333

電子メール: macc@city.arakawa.tokyo.jp

MACCコーディネータ TOMMYの部屋 VOL.38



「荒川女性経営者物語」 MACCシニアコーディネータ 豊泉光男



新しい年を迎えおめでとうございます。2016年のオリンピックでの女性アスリートの活躍は多くの日本人に大きな勇気と感動を与えました。

スポーツ界での女性の活躍は目を見張るものがあります。一方ビジネスの最前線ではどうでしょうか？2013年米国調査では女性役員比率が最も高かったのはノルウェーで36.1%、次いで2位はスウェーデン27.0%、など、上位は北欧の国が占めています。

先進国の平均は11.8%、新興国の平均7.4%でした。一方日本は45か国中44位 1.1%でした。別の調査でも女性役員比率は北欧諸国が上位日本は最下位。と女性にとって我が国の経営者への道は狭き門です。経営者への門戸は男女を問わず広く人材を受け入れる事が我が国の課題です。

しかしこの状況でも遅く女性経営者は誕生し、元気に活躍する女性は増加しています。MACCプロジェクトでは「会社の継ぎ方/モノづくり産業の未来」として、各地から元気な女性経営者4人と卒業前の元気な女子大生2人のパネルディスカッションが行われました。一方で女性経営者ならではの苦勞も多いものです。

課題1、会社では上司も部下も男性ばかりのため、少数派の女性の受入れに慣れていません。結果コミュニケーションギャップが生じ易いのです。

この問題は女性経営者比率の低い我が国では特に起こりやすい課題と言えます。今後男女共同参画社会形成には超えていかななくてはならない課題ですね。

課題2、ワークライフバランス（仕事と家庭の両立）の悩みです。会社では社長としてもプレイングマネージャーとしても重要な意思決定を行い家庭で

は家事と育児を家族のために精一杯行う。両方を一人で行うには一日が24時間では足りません。家庭を持つ女性経営者の大きな悩みです。

ある女性経営者は幼子をおぶって、会社で機械加工を行った思い出を話してくれました。また、他の女性経営者は自宅に帰って「会社でも家庭でも夫婦はいつも一緒。妻は「社長」夫は「部長」と呼び合っています。今は慣れていきますよ。」と、こちらではイクメンの夫が活躍している姿が想像できます。

このように荒川区の将来には多くの女性経営者の誕生は欠かせません。荒川区MACCプロジェクトでは2016年より女性経営者の勉強会「サンアス会」（明日の太陽のように輝く女性経営者の会）を2か月に一度のペースで開催しています。お問い合わせは気軽に 担当鈴木、豊泉まで



荒川区MACCプロジェクト「サンアス会」例会にて

<発行> 荒川区産業経済部経営支援課産業活性化係 MACCプロジェクト事務局

〒116-8501 東京都荒川区荒川2-2-3 TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333

E-mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp

登録番号(28)0009-3号